2007～2008 年度　ROTARY　CLUB　OF　TOYOKAWA　HOI CLUB　WEEKLY

やらまいか

例会日：毎週火曜日 12：30　　例会場：豊川商工会議所
会　長：井指光基　　幹　事：山城康司　　ＳＡＡ：笠原盛泰　　会報委員長：小野喜明
事務局：豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内　℡0533-86-2535　Fax0533-86-8889
ホームページ http://toyokawahoi.tank.jp　　Email hoirc@sala.or.jp

本年度２４回　　通算第１０５０回　　平成２０年１月８日（火）　晴

ゲ ス ト　　愛知県立豊川工業高校陸上部　渡辺正昭監督
ビジター　　（なし）
出席報告　　宮崎眞一委員長

会員総数	計算会員数	本日の出席者数	本日の出席率	12／11 修正出席率
５７名	４９名	３４名	７６．３％	９６．１％

司会進行　　小田伊佐浩ＳＡＡ

★会長の挨拶及び報告　　井指光基会長

皆さん明けましておめでとうございます。12 月 25 日のクリスマス家族会には 123 名の方々にご出席を頂きましてありがとうございました。親睦委員会の皆さんご苦労様でした。

本年度のクラブテーマは「心の和」です。そして四つの幸せということで「言葉を合わす、力を合わす、心を合わす、手を合わす」と申し上げました。上半期は手を合わせることが多くありましたし、年が明けて永平寺の貫首様が亡くなられて、豊川閣の方丈様が貫首になられたということで、手を合わせることが多くありますので、皆さんも健康には充分留意してください。半年過ぎましたが、後半も「心の和」と「四つの幸せ」でクラブ運営を行って参りたいと思いますので、ご協力お願いします。

また、本日は本年度初の新入会員２名の入会式がございます。大変嬉しく思います。

★幹事報告　　山城康司幹事

例会臨時変更のお知らせ
　豊橋東、新城、渥美ＲＣ

★委員会報告

親睦委員会（度会委員長）
　クリスマス家族会のお礼
クラブ奉仕委員会（鈴木委員長）
　次回の例会についての連絡

★新入会員の入会式

㈱細井設計代表取締役　　細井　勉氏
東海ワークス㈱代表取締役　廣田啓司氏

○新入会員の紹介　　山城康司会員

㈱細井設計の代表取締役の細井勉さんをご紹介します。平成 2 年に会社を設立されています。私は 15 年ぐらいのお付き合いになりますが、立派なロータリアンとして活動して頂けると思いますので、ご推薦申し上げました。どうぞよろしくお願いします。

○新入会員の紹介　　水野太一会員

東海ワークス㈱代表取締役の廣田啓司さんをご紹介します。豊川で 30 年ほど運送業をされています。僕は知り合って 18～9 年になります。非常に明るく勢力ある会社でございます。場所は国道 1 号線沿いの白鳥にあります。趣味はカラオケとゴルフだそうです。今後とも宜しくお願いします。

○バッジの贈呈

○歓迎の言葉　　伊藤靖彦Ｒ情報委員

細井さん、廣田さん、ご入会おめでとうございます。この地区は 2760 地区と言いまして、愛知県内 81 クラブ、ロータリアン 5,188 名の仲間になりました。推薦者の方はクラブでは親になりますので、何でも聞きながら勉強をして頂きたいと思います。

○新会員あいさつ　　細井　勉会員

この度、皆さんのお仲間にさせて頂きました細井です。私の会社は、メカ・機械・電気の請負持ち帰り業務と技術部門と事務職の派遣もやっております。まだまだ未熟の会社ですので、皆さんの助言を頂いてこれからの会社運営を行って参りたいと思っております。今後ともよろしくお願いします。

○新会員あいさつ　　廣田啓司会員

東海ワークスの廣田です。今回、水野さんのご紹介で豊川宝飯ＲＣにお世話になることになりました。どうぞ宜しくお願いします。運送業 1 本でやって参りまして、このように会の経験が全くございません。皆さんのご指導ご鞭撻をよろしくお願いします。昭和 20 年生まれで大阪の出身です。豊川に暮らして 30 数年になります。会社は一般貨物運送事業、貨物取扱業、総合業、保険代理業をやっております。保有車両は 80 台。我が社の会社理念は、「社会とお客様のニーズに積極的に答え、企業の発展と社員の幸せを追求する」であります。会社のスローガンは「実践躬行」です。運送業は原油価格が高騰していまして経営を圧迫していますが、良い社員を育てて他社との差をつけて頑張っております。よろしくお願いします。

★外部講師の卓話

○講師の紹介　夏目雅康ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ委員長

講師の紹介は、もう皆さんご存知の豊川工業の渡辺監督です。私の方からは昨年 12 月の駅伝のお礼を一言申し上げます。毎年のように応援を頂きまして誠にありがとうございました。お陰様で期待以上の成果が出まして大変喜んでおります。出発前の壮行会の時から、生徒諸君も監督も非常に良い顔をしておりましたので、きっと良い成績を残してくれるだろうと期待していましたら、我々が思っていた以上の結果を出してくれました。詳しいことは渡辺監督よりお話を伺いたいと思います。ご静聴宜しくお願いします。

○卓話「全国高校駅伝大会出場の報告」

豊川工業高校陸上部　渡辺正昭監督

皆様、あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。特に全国高校駅伝出場に際しましては、皆様方から心のこもったご支援を頂きまして誠にありがとうございました。お陰さまで、男子は第５位入賞という結果を出すことが出来ました。本年も頑張っていきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

今回の全国高校駅伝に向けては、戦前の予想では入賞ギリギリではないかと正直我々もそのように思っておりました。県予選のタイムのランキングでは、全国 12 番、力的にも 6 番から 12 番の辺りでどこへいってもおかしくない状況でした。そんな状況で調整をして京都へ入っていき、そこで最終の調整をしました。京都へは部員全員で入り準備をしていきますが、毎年、部員全員を前にしてミーティングをやっています。今年も確認したことですが、全国大会に出場して走れるメンバーは男子の場合 7 名だけです。その 7 名はひのき舞台の上に上がれるんですけれども、本校

の部員は全員で 34 名います。ですので残りの者たちはその舞台には上がれません。しかし、その舞台を作り上げていくには部員全員の力が必要なのです。「ステージの上に上がって演技をしたり歌を歌ったりと舞台の上に上がるのは 7 名だけど作り上げるのは全員だ。メンバー7 名がステージの上で良い結果を出せるように、例えば照明がいたり音響がいたり、大道具小道具がいたり、周りの人たちが力を合わせないと良い舞台ができない。」今回もそんな話をしました。7 名の子達は、それだけの支えがあってこの大会に出してもらっているという、そういう感謝の心をもって出場することが出来たのではないかと思います。部員全員でミスの無い駅伝をしよう。全員駅伝をしようと全国大会に臨みました。大会の前日に最終のオーダーを監督会議で提出します。オーダーは私の意見も加えさせてもらって、最終的には生徒たちで決めて提出をしました。提出をしたその日の夜に最後のミーティングを行いました。先ほども申し上げたように、全員で舞台を作り上げるので、走るメンバー以外の者も、どのような目標で、どのような展開でレースが進んでいくのか、なにを目標にしているのかの確認をしなくてはいけない。私なりに描いているものを生徒全員に話をしました。それは、1 区、今回は三田が走りましたけれども、1 区は留学生が飛び出していくだろう、それを追いかけて三田は自分のペースで行くだろう。西脇工業の八木君という生徒も強かったので、その子は追いかけるかもしれないが三田は自分のペースで自分のリズムで行くだろう。だから日本人の第一集団の前に出て 2 区にタスキを渡すだろう。まぁ 5～6 番で渡すのではないか。2 区は後半追い上げられるだろうけれども、順位をキープしながら 3 区に渡して、3 区は後半粘って単独で 4 番・5 番あたりを行くだろう。4 区で追い上げられてつかまるだろうけれども、そこからもう一度抜け出して 5,6,7 区で逃げ切る。そんな話をしました。実際はもうちょっと具体的に話をしましたけれども、一言で言うと「前半は攻める、後半は堪える、粘る。」そんなテーマで大会に臨みました。子ども達もメンバーで走る子だけでなく、応援や付き添いをする子達もそれぞれの役割をすることに、今回のレースはどういう目標でいくのかがわかっていないと自分の役割、具体的な行動がとれないと思いますので、毎年のことなんですが、全体の目標、今回のレースのイメージをミーティングで話をさせてもらいました。生徒達は、その目標に向けてそれぞれの役割に集中して徹底してやってくれたと思います。高校生のスポーツですので、心の揺らぎ、動揺ひとつでレース展開が大きく変わってきます。みんなが共通のイメージを持つことで「大丈夫だ」という、「僕はこれをやるんだ」「みんなはこれをやるんだ」「だから我々は大丈夫なんだ」という安心感を持ってスタートラインにつけたのではないかと思います。

大会当日の朝練習の時に外へ出て行きましたら、ちょうど同じ宿に広島の世羅高校がおりまして、そこの日本人エースのキャプテンの鎧坂君という 3 年の生徒がいまして、その子が玄関先で 1 人下向いて立っていました。あぁ何かやったな、後で聞いてみたら、大会前日の練習で疲労骨折。ですから優勝候補に入っていた世羅高校がその時点で落ちてしまいましたし、これも後からわかったことですが、西脇工場のエース八木君も熱を出して点滴を打ちながらレースに臨んだそうです。よく試合前にもう勝負は始まっていると言いますけれども、今回も試合の前にいろんな学校がバタバタして倒れていきました。その中で本校の子は順調にスタートを迎えることが出来ました。レース当日は、毎年のことですが、生徒たちひとりひとりに握手をして、「いつも通りでいいぞ」、「予定通りでいいぞ」そんな話をして送り出しました。子ども達も前もってずっと自分でイメージしてきましたので、その通り落ち着いて各中継点に向ってくれたと思います。

スタートをしまして、予想通りケニアの子たちが飛び出して、それを三田は 1 人で追っかけて行きました。あっ八木君はどうしたのかなぁと思ったら、もたもたして結局遅れてしまいました。三田はそのことも、それほど動揺も見せずに自分のペースでずっと前を追っかけて行ってくれました。2 区に渡った時には、日本人でトップ、総合では 3 番でタスキを渡してくれました。2 区以降もほぼ予想したとおり、2 区でひとり抜かれましたけれども、また 3 区で抜き返して単独で 3 番で折り返しをしました。後半、テーマとしては粘る、逃げる、そういう展開になりましたけれども、やはりこれも予想したとおり、4 区で後ろから一気に追い上げられました。5 つのチームに後ろからワッと来られましたが、そ

こでつかまってバタバタしていれば後半 10 番 11 番。ですけれども予想していたものですから、前半落ち着いて行きまして、後ろは勢い良くオーバーペースで追い込んで来ましたので、後半バタバタしたところでスッと逃げて 4 番で 5 区に渡しました。5 区は前から勝負どころだと睨んでいましたので、実際はチームの中で 3 番目の力のある子が 5 区に入りました。こんなことは本当は無いんですね。実際 3 番目の力の子は 4 区にまわるのが普通です。ですけれども本校の場合には 4 区に 7 番目の力の子が入りました。本当は 4 区で一気に抜かれてしまう可能性もあったのですが上手く凌いでくれて 5 区に、5 区でもう一度 3 番に上がって後ろの 4 番以降をある程度引き離してくれました。ただ 6 区が思ったよりも延びずに、他のチームにすぐ後ろまで来られて、アンカーに渡った時には 3 位でした。すぐ後ろに埼玉栄、そのまた後ろに優勝候補であった西脇工業、そんな展開になりました。アンカーに渡った時点で、走った本人には申し訳ないんですけれども抜かれるかなという気はしました。ただ競技場に入ってきた時にどこかと並んで入ってきてくれればＯＫだと思いました。アンカーの子は、今までどうしても前に攻める走りが出来なかったので、とにかく引かずに隣と競り合って競技場に入ってきてくれれば、この子はひとつ成長した。チームとしては負けるかもしれないが、この子はひとつ成長だという思いで見守っていました。西脇工業には前に行かれましたが、4 番争いで並んで競技場に入ってきました。もうその時点でチームとして個人として成長したなという思いで見ていました。最後には多少欲もでて 5 番よりも 4 番の方が良いだろうというのはありましたけれども、でも最後ゴールで胸の差で負けたときも、「うん、良くやった」という満足できるレース展開でした。予想としては 12 番 13 番になってもおかしくないそんなチームではありましたが、上出来の 5 位入賞。目標としていたタイムは 2 時間 5 分 49 秒でした。実際は 2 時間 5 分 51 秒。2 秒違っただけですので、タイムとしても、個人個人の走りとしても、総合力としても満足できる結果ではなかったかと思います。

今回感じたことは、大会前に皆様方からの応援を頂いているので、皆様の前では、できるだけ優勝目指して頑張りますと言いたい所ではありますが、現実、今の自分たちの力を冷静に見たときに 5 番 6 番ではないか、良くて 6 番。今回は世羅高校が 1 人欠場したことで一気に落ちてしまいましたので、実際 6 番ぐらいではないかと思いますが、それも力と考えれば 5 番は上出来です。今のチームにあった目標、もちろん一年間必死に練習をしてきている訳ですから高いものを目指したい、自分たちの力がこれだけついたと言う証明をしたい、努力の証明をしたい訳ですが、直前になってきて自分たちの力を冷静に見れば、この子たちにあった目標をはっきりさせて、明確にさせて試合に臨んでいくということが大事なんだとつくづく感じました。今回は、女子も豊川高校さんが初出場で 7 番という非常に良い結果を出してくれてましたので、我々もそれに負けないような結果が出せたことを嬉しく思いますし、今まで以上の手ごたえを感じた大会でありました。今回の経験をこれから生かしていきたいと思いますし、単に強い子たちが集まって個人個人の力をつけるだけでは駅伝では勝てない、上位に行けないと感じました。

また、これも毎年やっていることですが、今回も京都に入って、大会の３日前にそれぞれ個人個人に今までお世話になった人たちの顔を思い浮かべて、どれだけの人にお世話になったのか、今回は日誌に書いてみようということで、それぞれ生徒に日誌の中に書いてきてもらいました。全部見させてもらったのですが、お父さんお母さんから始まって、小学校や中学校の先生、地域の方々、親戚の人、お世話になったお医者さん、泊めてもらった旅館の女将さんとか、いろんな人の名前がずっと書いてありました。でも冷静に見ていくと、本当にお世話になった方々ひとりひとりの顔を思い浮かべながら感謝の気持ちを持って書いている子と、何か順番に書いている子と、見ればわかるんですね、字を見れば・書き方を見ればわかります。それを見ていくと、お世話になってきた人たちに心から感謝をしながら書いているなと言う子は強くなっているんです。高校生活高々2～3 年ですが、ぐっと伸びてきているんですね。結局はそこなのかなと思いました。いろんなトレーニングがありますし、それは良い選手を集めたり、中には外国から連れて来たりするところもありますし、良い環境でやれば多少は強くなるかもしれません。でもやっぱり人間のやることですから、こんな良い仲間と練習させてもら

っている、お母さんは毎日朝早くから弁当を作ってくれている、あそこでお世話になった旅館の女将さんにはこんなことをしてもらった、そんな想いがずっと心にある子は強くなってきているんですね。あぁ、ここなんだなとつくづく感じました。ですから我々は、駅伝というスポーツをやっていますが、それを通じて人間が成長していくために一番大事なことを教えられているかなと、そんな確認も今年は出来ました。そういうことを子ども達が感じて大人になって、大人になってからが勝負ですので、人生の中でも感謝の心を忘れずに成長していってほしいと思っております。

今回、10 年連続で全国大会に出させてもらっているのですが、ずっと全国に出てきて、男子も女子も色んな意味のレベルが上がっています。でも、ふっと考えることは、全国大会当日の毎日新聞に「部活動とは」というテーマで載せて頂いたんですが、僕が一番思っていることで、部活動とはまさしく学校教育なんです。教育なんです。強い子だけ頑張れば良いのではなく、強い子弱い子いろんな子がいて、その子たちがそのスポーツをやってるから成長をする。人間的に成長をする。自分の人生の中において非常に大事な軸ができる。そういうことが目的でやっているのです。強くなって勝って賞賛浴びて、それを目的でやっている訳ではないのです。結果として 1 番になったり上位に行くということは、努力の証明ができることですから、それはそれで良いのですが、ただそれだけを目的にしてやっている訳ではないです。今の小学校も中学校も高校もそうですが、クラブチームがたくさん出来てきています。それはそれでいいんですが、強い子だけ集めて 1 番目指して頑張りましょう、弱い子はいりません。強い子だけ良い環境でやりましょう。そういうスポーツは何か偏っているような気がしてなりません。以前ある大学でパネリストとして参加させてもらいました。僕は高校教員として、そして隣に昨年度までトヨタ自動車のラグビー部の監督をやっていた朽木という日本代表としてラグビーをやっていた同級生がいて、あとサッカーのアルビレックスの強化担当の方がいて、その人たちとでパネルディスカッションをしました。サッカーの方はアルゼンチンとか行って選手を獲得してくるわけです。話の中で、アルゼンチンでは一つの村から選手を連れてくるとその子は村のヒーローだ。成功したら物凄いお金も貰えるしヒーローになる。でも失敗するとだいたいは薬の売人になる。つまり、生活も苦しくそれだけハングリーなんだ、だから日本はあのような国に勝てないんだって言うんですね。ええっ!それが良い事なんですか？と思いました。勿論口に出して言いませんでしたが、僕が思うにはサッカーをやっていたから貧しくても頑張れましたというのがスポーツの良いところなんではないか、サッカーで失敗したからあとやる事は薬の売人しかない、それじゃサッカーやっていた意味ないじゃあないですかって心の中で思いました。海外のハングリーな国では常識みたいです。だから本当に負けたくないという気持ちが強いんですね。ただそれだけで良いのかどうか…。隣にいた朽木は、ラグビーの全日本をずっとやってきた人ですから海外遠征をしています。ラグビーはジェントルマンスポーツの典型なんですね。紳士の象徴みたいなスポーツなんですね。ですからみんなネクタイをピシッとしめて観戦に行きます。それでイギリスに行った時の話をしてくれました。彼たちはジャパンとしてイギリスに行って試合をした。イギリスのチームとやって、試合が終了しイギリスのチームは、日本のチームの応援席の前に来て並んで、キャプテンがお礼の言葉を述べた。まず観客にお礼を言った。それから相手チームに敬意を表した。審判にも敬意を表した。そして仲間にも感謝の言葉を言った。イギリスでは当たり前だそうです。日本はどうですか？サッカーなんかで、インタビューを受けると「いや～今日は調子が悪くて、僕的には・・」非常に寂しいインタビューの答え方をしています。その朽木はしきりにその事を言っていました。イギリスでは小学生もそのようなスピーチを必ずするそうです。みんなの前に出て、相手チームに敬意を表する。審判に敬意を表する。それから応援してくれた皆さんに感謝の言葉を述べる。これイギリスのジェントルマンスポーツでは当たり前にやることだそうです。だからスポーツが非常に貴重な存在で、高い意識でやられているんですね。それがスポーツの良いところなんです。部活動もまさしくそうで、部活をやっているから、例えばメンバーになれなかったけれども 3 年間色んなことを教えてもらったとか、スポーツをやっていたからこんな体験ができた。だから僕は社会に出ても頑張れるっていうような、そのよ

うなことがなければスポーツの意義が薄れていってしまうと思うんですね。学校で部活動をやっているのは何故か、それを求めているからです。“知育・徳育・体育”この中の徳育・体育を一番担っているところが部活動なんですね。ですから、その活動をしていく時に、いろんなところの批判になってしまうかもしれませんが、教育の部分を求めてやっていく時に、強ければいい、強いのを集めて早く全国1になろうという考えは非常に恐ろしい。今のメンバーでコツコツやっていって成果を出そう。例えば全国大会に行けなくてもいいではないか。自分たちでよく頑張った。これから社会に出ても頑張ろうっていうのが部活動であって、弱いのはいらん、強いのだけ集まって来い、強いのを集めて全国大会に出で、あぁ凄いぞ。これを子ども達が見てしまって、「なんだ強ければいいのか」ってことに。去年なんかそんなのが沢山ありました。誰とは言いませんが、相撲、ボクシングなど…、そのことを象徴しています。お前たちは何様だ、たかが相撲やボクシングで強いだけで偉そうにっていう感じが僕はしました。イギリスでは、ジェントルマンスポーツとして、色んなスポーツが人間形成に大切であると言われています。日本でも昔はそうだったんです。駅伝というのは日本特有のスポーツです。心をつなぐ、タスキをつなぐ、非常に日本人に好まれるスポーツですし、日本の子ども達を育てていくのに非常に大切な部分ではないかと思います。ですから、豊橋市の教育長は、初めて小学生にも駅伝をということで、昨年暮れに大会を開きました。僕も見に行きました。一応市内全学校に呼びかけをしたそうです。小学生の子たちが小さいながらも頑張ってタスキをつないでいました。いろんな意味での教育的効果があると思います。それが違った方向に行ってしまうといけないなと思いますが、でも我々としては、学校教育という、もちろんスポーツは地域の教育でもありますが、そういう意味でスポーツを伝えて子ども達に大事な所をわかって欲しいなと思っています。

年が明けて、まず卒業生などいろんな子たちから年賀状が来ました。その子たちは陸上をしている子もいるし、一般で就職している子もいます。その子たちからの年賀状にほとんど書いてあったことが、「後輩たちの頑張りに励まされます」という言葉です。我々の活動も年がら年中一生懸命やっているだけなんですが、でも卒業していった先輩たちの励みになっているのかなと思いました。その中のひとりに三菱自動車に行っている子がいまして、今回もパリに行っていました。パリ・ダカールのエンジニアをやっている子で、「先生、いま僕たちは世界7連覇しています。後輩たちに負けないように今年も頑張ります」って出掛けたんですが、中止になっちゃいました。でも世界トップですからね。「すごいな、メカニックをやっているのか。」と言うと「先生、メカニックではありません、エンジニアです。一緒にしないで下さい。世界に行くと全然レベルが違うんです。」メカニックとエンジニアではエンジニアの方が上になるとしきりに言っていました。そんなことで、世界で頑張っている先輩もいます。1月1日には実業団のニューイヤー駅伝がありまして、本校の卒業生で現在コニカミノルタに勤めている山田紘之という豊川の御油出身の子で、その子が第4区を走り、コニカミノルタは見事優勝をしました。卒業生の中で初めて優勝メンバーが出ました。そして2日、3日の箱根駅伝では、卒業生が4名それぞれ頑張って走ってくれました。また先輩たちの頑張りに後輩たちも元気づけられ勇気づけられて、また頑張ってくれるのではないかと思います。私も卒業生の子達に実際は励まされて頑張っている次第でございます。また今年一年も頑張っていきたいと思いますので、皆様方のご支援よろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

★ニコニコボックス

◎その他

水野太一会員　廣田会員を宜しくお願い
山城康司会員　細井会員を宜しくお願い
鈴木健雄会員　創業・入会を祝って頂き

ロータリー豆知識

1月はロータリー理解推進月間

ＲＩは、毎年1月をロータリー理解推進月間に指定しています。これは、対外的には広報活動を通じて、対内的にはロータリー情報集会などを通じてロータリーを推進するものです。

会報担当者：林　博宣会員

このウィークリーは再生紙を使用しています。